

6月
6日(土)



色からわかる葉の一生

春の訪れとともに、今、私たちの周りの木々は新緑の葉を茂らせています。この葉の“色”は四季を通じて変化します。淡い緑から濃い緑、そして黄色や赤色…こういった色の変化は私たちの目を楽しませてくれるだけでなく、その葉っぱにどれくらい活性があるかの情報も教えてくれます。たとえば、樹木の写真を毎日撮り続けて解析すると、葉っぱの一生とその間の二酸化炭素吸収能力を予測することができます。

分光観測という新しい“目”

さらに、赤や緑色だけでなく、私たちの目では通常見ることのできない光の反射を特殊なカメラで撮影すると、葉っぱの中に含まれる成分も知ることができます。たとえば、葉の中の色素量や、虫の嫌がる苦み成分や繊維質などです。このような最新のセンシング技術を森の観察に応用することで、樹木の栄養状態やストレス反応をしらべる、そんな「診察」のような取組みをすすめています。



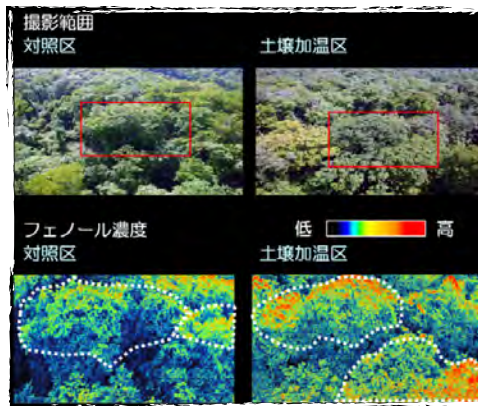
苫小牧研究林での研究事例

このような観測手法の研究以外にも、北大苫小牧研究林では、多くの動植物を扱った研究がおこなわれています。どんな人たちが何を調べているのかといった概要も紹介しつつ、フィールドサイエンスの面白さについてお話ししたいと思います。



中路達郎 (なかじたとろう)
北海道大学苫小牧研究林 准教授

2002年、大気汚染に対する樹木の生理機能の応答について研究し、東京農工大学大学院を修了(博士・農学)。国立環境研究所での研究活動を経て2009年から北海道大学苫小牧研究林に勤務。おもに、樹木の葉が吸収・反射する光の性質を手掛かりにその機能や質を調べ、温暖化や栄養状態の変化への応答性について研究している。1973年生まれ、神奈川県出身。趣味は海釣り。



サイエンスカフェ@苫小牧

目に見えない光で森をみる

苫小牧市美術博物館

14:00 -16:00 (1階研修室)

講師 中路 達郎氏(北海道大学苫小牧研究林准教授)

参加無料

苫小牧の森について、新しい“目”でみてみませんか？

お問い合わせ・申込み 苫小牧市美術博物館 0144-35-2550